

## 1 ビジョンの背景・契機

### ●西陣の多彩な魅力・資源

西陣を中心とした地域は、西陣織をはじめとした伝統産業や伝統文化・伝統芸能、寺社、花街の文化、商店街、歴史的な町並みなど、多彩な魅力・資源を有しており、千年以上にわたり、応仁の乱を含めた多くの困難を越えて、まちを、京都を発展させてきた地域である。



# 1 ビジョンの背景・契機

## ●西陣呼称550年の機運

平成29年は、応仁の乱勃発による「西陣」の呼称発祥から550年目の節目に当たり、西陣織工業組合による「西陣550」の取組や、西陣に対する東陣に着目した「東陣プロジェクト」など、様々な取組が行われている。

## ●「まち・ひと・こころが織り成す京都遺産」に認定

平成29年3月、京都遺産制度において、「北野・西陣でつづられ広がる伝統文化」が最初の認定を受けたことから、文化遺産の解説等を行うアプリの開発やパンフレットが作成されており、地域の多彩な魅力に改めて注目が集まっている。

## ●文化庁の全面的な移転が決定

国においては、文化庁に期待される新たな政策ニーズ等への対応を含め、文化庁の機能強化を図りつつ、京都に全面的に移転する方針のもと、遅くとも平成33年度中の本格移転（移転先：現京都府警察本部本館）を目指している。食文化をはじめとする生活文化など複合領域も文化政策の対象として捉え、文化の力による地方創生が期待されている。



## 2 ビジョン策定の目的・手法

### ●西陣の資源を活かした活性化，ひいては京都全体の活性化へ

西陣を中心とした地域が有する，歴史や文化に培われた多彩な魅力・資源，地域力や人間力を最大限に活かし，未来志向のまちづくりを進めることにより，西陣を中心とした地域の活性化を図り，ひいては京都全体の活性化に繋げていく。

### ●50年先の将来像を描き，今後10年間の取組を具体化

活性化ビジョンの検討に当たっては，概ね50年先を見据え，西陣を中心とした地域の大きな将来像を描きながら，目の前の課題に対して今後10年間でどう取り組んでいくのかを具体化するものとする。

また，本ビジョンは行政施策のみにより活性化を目指すのではなく，地域住民，事業者など地域に関わる幅広い分野の方々との役割分担の下，「じぶんごと」「みんなごと」で進めるビジョンとする。

西陣の歴史力・文化力に培われた  
地域資源の継承・更なる活用



西陣の地域力・人間力を活かした  
多彩な活動の連携・創出



# 西陣を中心とした地域の活性化

※参考：西陣呼称550年の節目を機に，西陣織工業組合においては，「西陣活性化有識者会議」を設置し，「西陣活性化ビジョン」づくりが進められている。

### 3 ビジョンの対象地域

「西陣」地域の明確な定義はなく、着眼点や捉え方によって対象範囲が異なっている。  
本活性化ビジョンの検討に当たっては、「西陣」の範囲を限定することなく、地域特性を丁寧に踏まえながら活性化の方策に応じて、「西陣を中心とした地域」として柔軟かつ効果的に捉えていく。

